平成 26 年 7 月 11 日

関　係　各　位

和歌山市坂田８５番地
株式会社島精機製作所
(ｺｰﾄﾞ番号 6222 東証一部)

島　正博（株式会社島精機製作所　代表取締役社長）の
ドレクセル大学名誉経営学博士号受章のお知らせ

このたび、島精機製作所社長　島　正博が、米国ペンシルベニア州フィラデルフィアにあるドレクセル大学より名誉経営学博士号を授与されましたので、お知らせ申し上げます。

記

【博士号】　Doctor of Business Administration, honoris causa
（名誉経営学博士号）

【受章者】　島　正博（株式会社島精機製作所　代表取締役社長）

【理　由】　2012 年秋、ドレクセル大学に Shima Seiki Haute Technology Laboratory（シマセイキ先端技術研究所）が６学部（芸術&デザイン学部、工学部、情報工学部、医学部、看護学部、生化学工学部）の共同研究施設として設立され、弊社のホールガーメント横編機ならびにＳＤＳ－ＯＮＥ　ＡＰＥＸ３を設置し独自の研究開発が開始されました。革新的なホールガーメント技術と、世界に類を見ないニット技術の事業化に成功し、新しいビジネスモデルを確立したことが高く評価されました。

【授与式】　2014 年 6 月 14 日（土）にドレクセル大学、芸術&デザイン学部と教育学部の合同卒業式の冒頭に行われました。

【ドレクセル大学】
米国ペンシルベニア州フィラデルフィアに本拠を置くドレクセル大学は、最先端の学術研究で知られるトップクラスの総合私立大学です。創立は 1891 年で、学生数は約 2 万 5,000 人。米国で最大級の私立高等教育機関です。

【研究開発による効果】

ドレクセル大学では学部の壁を越えた共同研究を行い、衣と科学の結合による高機能衣料などの取り組みを行っています。

・　スマート腹帯

従来のように、妊婦が通院してさまざまな医療器具を身体に着け長時間にわたり受診することなく、センサーを編み込んだホールガーメント製の腹帯を巻くだけで、胎児の健康状態を常時確認することができます。今夏より医学部にてモニター開始予定。

・　帯電ニット

ドレクセル大学が開発した蓄電機能をもった糸を使うことで、センサーや機器の操作、データ通信に必要な電池がいらない新しいスマート衣料が実現できます。一着まるごと糸のつながったホールガーメント技術が不可欠です。

このように、当社製品が新規産業分野への活用や新技術の展開に不可欠な要素として使われており、今後の広がりが期待されます。

【問合せ先】　株式会社島精機製作所　総務人事部　藤田・今井
Tel 073-474-8208

以上

（別紙）

現在までの流れ

1985 年、編み地の寸法誤差を±1%で編成可能としたデジタル・ステッチ・コントロール・システム（ＤＳＣＳ）を開発し、ニット発祥の地イギリスで今世紀最大の発明と評価されました。この功績により島　正博社長は、1993 年英国クランフィールド工科大学※から名誉工学博士号を授与されました。ＤＳＣＳは、ニットを立体的に編み立てるためには欠かせない技術であり、ホールガーメント横編機では、糸張力も制御するｉ－ＤＳＣＳとして更に進化し、最高品質を確保し安定性のあるモノづくりを提供しています。

ホールガーメント横編機を開発した 1995 年 10 月、クリントン大統領宛にレターを送り、米国でのホールガーメント技術を展開したモノづくりを提案し、感謝のレターもいただきましたが、その後の展開には時間はかかりました。やがて、リーマンショックによるバブル崩壊の教訓からメイド・イン・ＵＳＡの復活を視野に入れた研究開発が行われるようになり、弊社機器の納入先であるバッファロー大学（ニューヨーク州立大学バッファロー校)、ＦＩＴ（ニューヨーク州立ファッション工科大学）で研究が始まり、ドレクセル大学にもその一環で導入され、2012 年には学内に研究所を開設し、多くの学部でモノづくりへの新たな挑戦が始まっています。

また、米国のニット業界への一連の取り組みが評価され、2012 年 9 月には外国人として初めて米国繊維歴史博物館（American Textile History Museum）に殿堂入りを果たしております。

一方、日本では生産性を上げたホールガーメント横編機と立体表現ができるＳＤＳ―ＯＮＥ―ＡＰＥＸを活用した革新的なニット生産方式の提案をおこない、2007 年にはわが国生産技術のノーベル賞ともいわれる大河内生産特賞を受賞しました。

※現在の名称はクランフィールド大学

添付写真

① ドレクセル大学経営学名誉博士号ディプロマ、記念盾
② クランフィールド工科大学名誉工学博士号記念盾
③ 第 53 回大河内記念生産特賞受賞盾
④ 米国繊維歴史博物館殿堂入認定証
⑤ クリントン大統領宛レター往来
⑥ ドレクセル大学での研究
　衝撃防止ニットを着たロボット
　センサーを編み込んだホールガーメント腹帯
　スパイダーシルクのニット
　動力で作動する手袋
　蓄電ニット

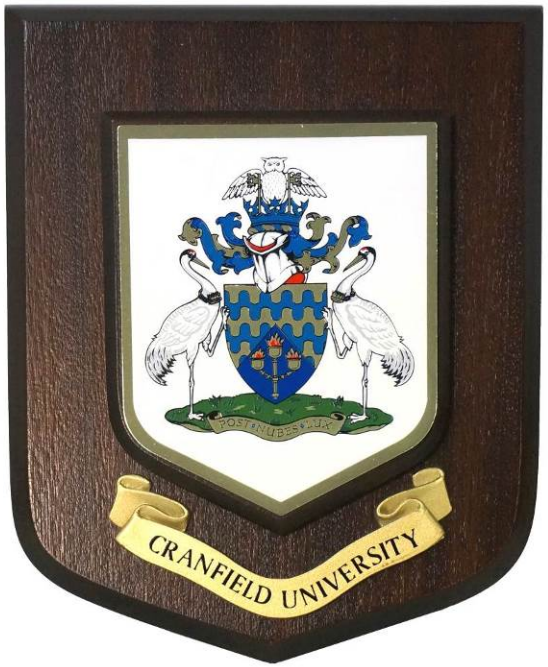
添付写真①　ドレクセル大学名誉経営学博士号ディプロマ、記念盾





添付写真②

クランフィールド工科大学名誉工学博士号記念盾



添付写真③

第 53 回大河内記念生産特賞受賞盾



添付写真④

米国繊維歴史博物館殿堂入認定証



添付写真⑤　クリントン大統領宛レター往来（当社→クリントン大統領）

SHIMA SEIKI U.S.A. INC.

22 ABEEL ROAD
CRANBURY, N.J. 08512 U.S.A.
TELEPHONE: 609-655-4788

FACSIMILE
609-655-3989

TELEX
84-4210

October 18, 1995

President William Clinton
White House
1600 Pennsylvania Avenue
Washington D.C. 20500

Re: Proposal and suggestion
to the issues of trade deficit and unemployment

Dear Mr. President,

Although I can not discuss about the above subject on national and global level, I can comment on the area in which I am involved, which is textile, particularly "sweater / knitted outerwear" industry.

Right now, USA is the largest sweater consumption country in the world. In 1994, about 250 million sweaters were sold in the US (almost every person bought one sweater.)

However more than 70% of finished products are imported mainly because USA buyers are interested in lower cost. In 1994, these sweater products caused about $2 billion trade deficit.

Also we have to be aware that we have lost employment opportunities because of these imported sweaters.

As I have summarized my view for these problems, please take a moment to read and review my ideas and suggestions how to solve these problems.

I am certain that this can be achieved and bring good results for every one in this country. It is very important to take some action where improvements can be made.

Mr. President, please give me a chance to talk to you or arrange some one to whom I can talk.

Sincerely,

Ken Yamamichi
Vice President

発信者：SHIMA SEIKI USA　山道副社長
日付け：９５年１０月１８日
宛て先：クリントン大統領　殿

貿易赤字、及び失業問題に関するご提案

親愛なる大統領　様

標題に関して、私は国家的レベルあるいは世界的レベルでのご提案はできませんが、私の属する業界において、コメントを述べさせていただきたいと思います。
それは、繊維業界、主に”セーター／ニットのアウトウェア”業界においてです。

現在、アメリカは世界でも最も大規模なセーターの消費国であります。１９９４年には、約 250百万枚のセーターがアメリカで販売されました（全国民のほとんどが、セーターを１枚は買ったということです）。

しかしながら、完成品の 70%以上は輸入されております。というのも、ＵＳＡバイヤーは低価格なものに目をつけるからです。１９９４年は、これにより ＄20 億の貿易赤字を被っております。

また、これら輸入品セーターのために、国内労働者の雇用機会を失われていることにも注目しなければなりません。

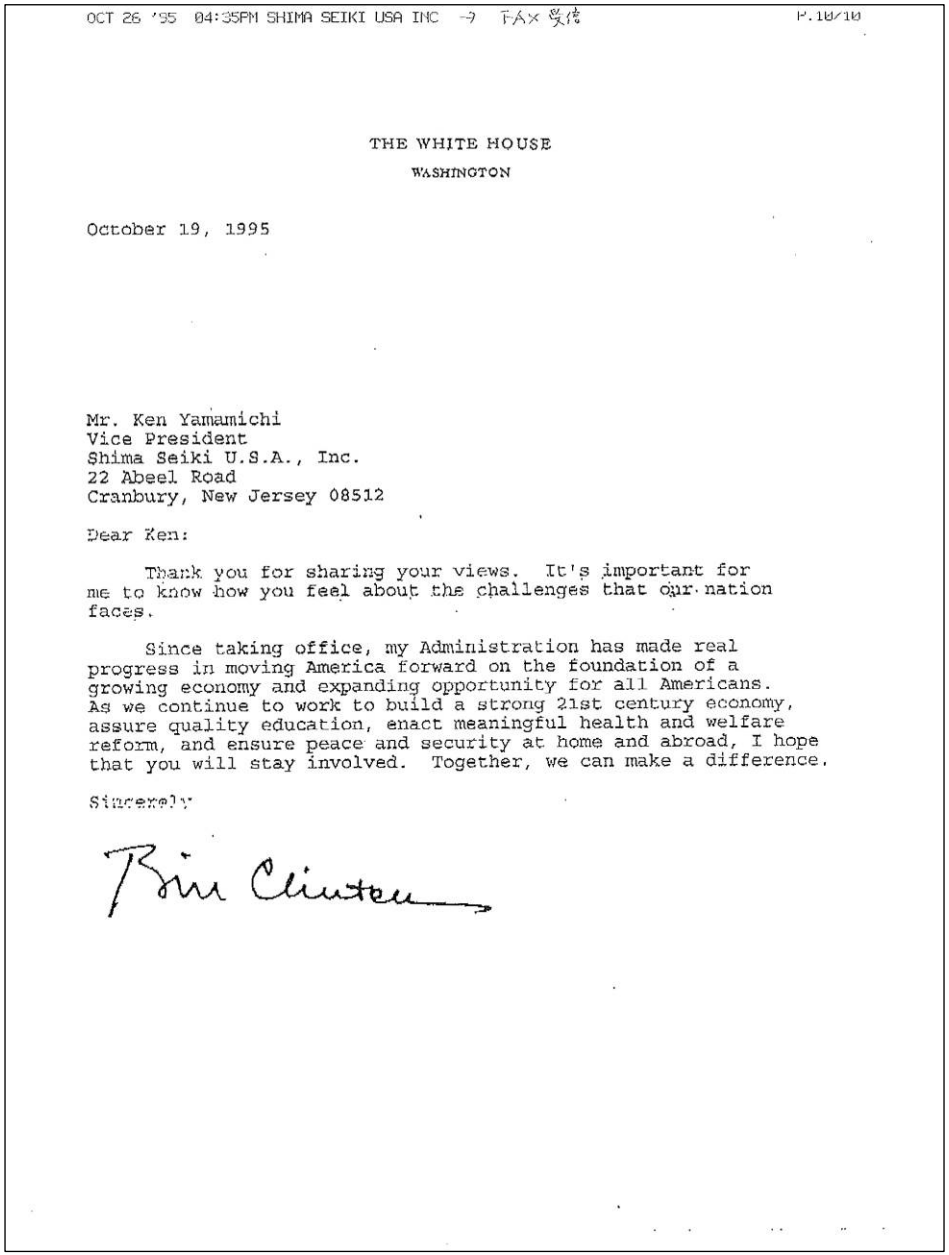
これら問題に関して私の見解をまとめさせていただきましたので、少しお時間を作っていただき、ご一読願いたいと思います。そして私のアイディアをご検討いただき、これらの問題をどのように解決していくか、私の提案に耳を傾けていただきたいと思います。

それによって、わが国全国民にとり必ず良い結果を生み出せるものと確信致します。改良できるところでは何か行動を起こし、より発展させていくことは大変重要なことだと思います。

クリントン大統領、どうか私に貴殿とお話する機会を与えていただけないでしょうか。
あるいは貴殿の代理となる方でも結構です。お会いできるようにアレンジしてはいただけないでしょうか？

敬具

添付写真⑤　クリントン大統領宛レター往来（クリントン大統領→当社）



OCT 26 '95 04:35PM SHIMA SEIKI USA INC →9 FAX 受信 P.10/10

THE WHITE HOUSE
WASHINGTON

October 19, 1995

Mr. Ken Yamamichi
Vice President
Shima Seiki U.S.A., Inc.
22 Abeel Road
Cranbury, New Jersey 08512

Dear Ken:

Thank you for sharing your views. It's important for me to know how you feel about the challenges that our nation faces.

Since taking office, my Administration has made real progress in moving America forward on the foundation of a growing economy and expanding opportunity for all Americans. As we continue to work to build a strong 21st century economy, assure quality education, enact meaningful health and welfare reform, and ensure peace and security at home and abroad, I hope that you will stay involved. Together, we can make a difference.

Sincerely

Bill Clinton

発信者：クリントン大統領
日付け：９５年１０月１９日
宛て先：山道副社長　殿

貴方のご意見を伺えたこと、光栄に思い感謝致します。私にとり、我が国がこの先取り組んでいくべき挑戦について、貴方がどのようにお感じになっているかを知れたことは、大変貴重なことだと思います。

就任以来、私の行政は、激動のアメリカにおいて、経済発展の基盤を作り、アメリカ国民全てが適切なる機会を持てるように経済の拡大をすることにおいて、発展を遂げて参りました。

我々は、２１世紀の経済が確固たるものとして築けるように、そして内容の濃い教育、健康と福祉の充実した法律の制定、そして本国においてもまた国外においても平和と安全を保証できるように日々働き続けておりますので、貴方もその一端を担って頂けたらと思います。
我々は、我々の未来をより輝かしいものにするために、共に頑張っていけることでしょう。

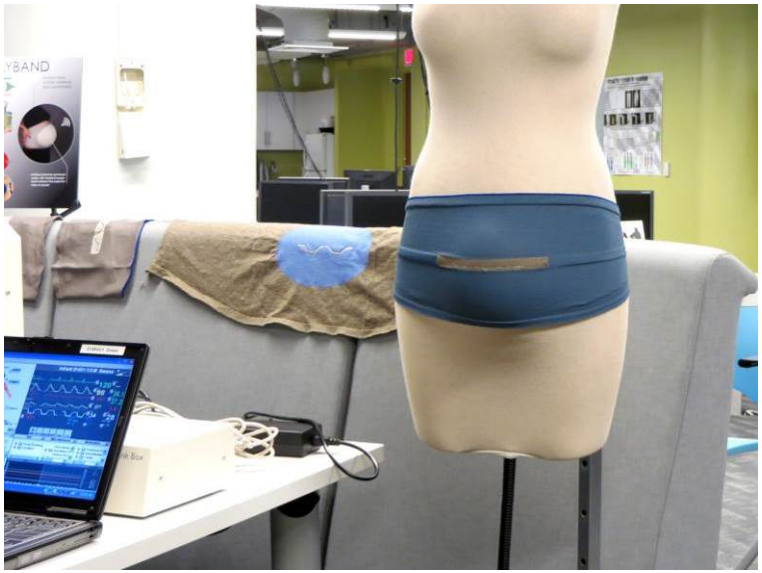
敬具

添付写真⑥　ドレクセル大学での研究

＜衝撃防止ニットを着たロボット＞



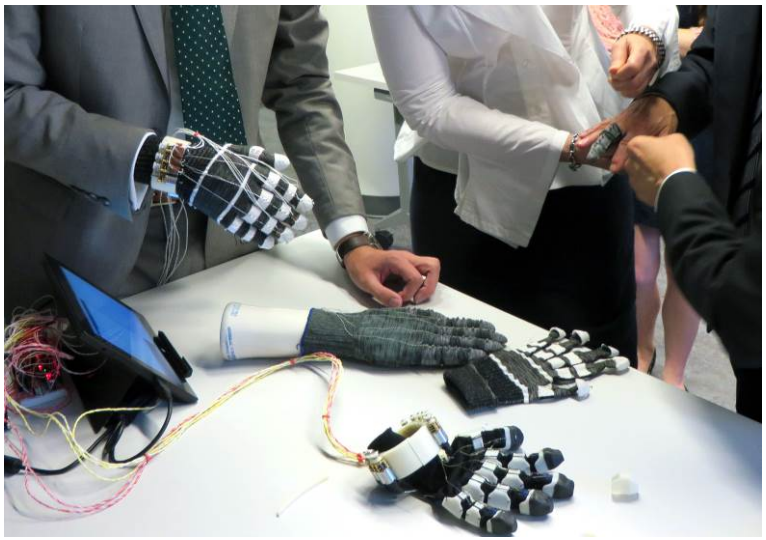
＜センサーを編み込んだホールガーメント腹帯＞



＜スパイダーシルクのニット＞



＜動力で作動する手袋＞



＜蓄電ニット＞

